中国新聞 2022年8月30日 火曜日 面名 県北 地方 22ページ

空き家流通 産学で促進

内外観の情報 360度カメラ・ドローン活用

庄原市内の空き家の流通を促そうと、物件の内部の様子や周囲の景観を高度な機器で撮影し、より詳しい情報を発信する産学の試みが始まった。地元の司法書士や宅地建物取引士らでつくる市空き家解決専門家ネットワークと県立広島大庄原キャンパス（七塚町）が連携する。（小島正和）

庄原 物件の動画 HP紹介

被写体を360度撮影できる特殊カメラと小型無人機ドローンを活用。所有者の了承を得て、物件の画像や動画を同ネットのホームページ（HP）「あきやねっと庄原」に載せる。空き家の購入や賃借を考えている人がパソコンやスマートフォンを操作し、間取りや部屋間の動線を体感できるようにする。

移住や空き家の購入希望者にとって、住居周辺の状況や自然環境も重要な決め手だ。ドローンでの空撮は四季ごとに実施し、複数の動画をHPに順次載せる予定でいる。同ネット理事で宅地建物取引士の宮崎孝記さん(59)＝川手町＝は「里山の緑豊かな風景だけでなく、冬の厳しい雪景色も見て判断してほしい。ミスマッチをなくしたい」と狙いを説明する。

宮崎さん㊨が見守る中、高野町の空き家を特殊なカメラで撮影する羽賀さん㊧と朴教授

撮影は、同キャンパス生物資源科学部の朴壽永（パクスヨン）教授(58)＝農業経営情報学＝とゼミ生の羽賀浩生さん(20)らが協力する。24日、同市高野町の築44年の空き家を対象に作業を始めた。スマート農業など次世代の農業経営の研究を本職とする朴教授は「ドローン技術を地域の課題解決につなげたい」と意気込む。

当面、市内の別の物件と合わせた2棟をテストケースに位置付ける。画像と動画は更新を重ね、情報発信の効果を探っていく。

HP上で物件の間取りを表示する画面の一例

(C) 中国新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。